

科目名	自然と地理	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			経済学部	□必修 ■選択	
			総合政策部	□必修 ■選択	
英文表記	Physical Geography	開講年次	■ 1 年 ■ 2 年 ■ 3 年 ■ 4 年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中		
ふりがな	はやし たけし	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	林 武司	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	様々な空間スケール（秋田～日本～グローバル）における自然の諸環境の成り立ちや相互関係，人間社会との関わり（自然災害，環境問題，資源・エネルギー問題等）にかかわる基礎的事項を学習する。また，これらの事項をふまえて環境リテラシー，環境倫理，環境正義の基礎を理解する。				
到達目標	様々な空間スケールにおける自然の諸環境の基本的なしくみを説明することができる。 環境問題や資源・エネルギー問題に関して，秋田・日本とグローバル社会との関係を説明できる。 環境問題について，環境リテラシー，環境倫理，環境正義をふまえて考えられるようになる。				
授業概要	人間の主たる活動領域である地球の表層を地圏，気圏，水圏の3つの領域に分け，それぞれの成り立ちやしくみと相互関係，人間活動による変化の現状と課題・問題について学習する。また，これらの学習内容に基づいて，環境リテラシー，環境倫理，環境正義について学習する。				
授業計画					
第1回	ガイダンス，序論：自然地理学の学問体系と大学で学ぶことの意義，地図・地理空間情報と Society 5.0				
第2回	地球の大きさと形				
第3回	地圏の環境1：地球の構造と活動				
第4回	地圏の環境2：地球の活動と地形の成り立ち				
第5回	地圏の環境3：地球の活動と災害				
第6回	地圏の環境4：資源・エネルギー問題				
第7回	気圏の環境1：気圏の構造				
第8回	気圏の環境2：大気循環と気候				
第9回	気圏の環境3：大気環境の質的变化：大気汚染，オゾンホール，酸性雨				
第10回	気圏の環境4：大気環境の物理的变化：気候変動と地球温暖化				
第11回	水圏の環境1：物質としての水				
第12回	水圏の環境2：地球表層の水の存在量と循環のしくみ				
第13回	水圏の環境3：水資源にかかわる量の問題				
第14回	水圏の環境4：水資源にかかわる質の問題				
第15回	環境リテラシーと環境倫理・環境正義（公平と公正，環境難民・避難民，持続可能性），まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	講義資料（スライド PDF）を配布しますので，必ず事前に目を通してください。分からない用語等は調べてノートにまとめておいてください。（1.5 時間程度） 授業開始時に，講義内容の確認テスト（小テスト）を行う場合があります。講義内容の復習をしっかりと行ってください。（1.5 時間程度） 日頃から，日本・世界の時事問題や環境問題について新聞等で確認し，原因や解決策等を自身で考えるように心がけてください。（0.5 時間程度）				
履修条件 受講のルール	なし				
テキスト	テキストは用いません。資料（スライド PDF）を配布します。				
参考文献・資料	講義で紹介する図表等には，全て出典を明記してあります。それらの出典を参照してください。				

成績評価の方法	【定期試験(50%)，小テスト(50%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席確認時に不在だった場合は，原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	講義時間前後
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	日本や世界が持続可能であるためには，人間社会が自然について良く理解し，世界が抱える課題や問題を解決するために適切な行動をとりつづけることが不可欠です。「自然と地理」では，自然について理解するための基礎を学習しますが，学んだことを行動に結びつけるためには，皆さんの日常の心がけが重要です。日頃から，世界が様々に結びついていることを意識し，自身の周辺や世界の出来事について関心を持つようにしましょう。